
認知症診療における認知症カフェの 役割と今後への展望

The role of dementia cafe in the medical practice of
dementia and the prospects to the future

藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科

武地 一*

はじめに

近年国内で認知症カフェが増加し、認知症にまつわる地域資源として重要な役割を担うようになってきている。認知症と地域包括ケアという視点から、認知症カフェが認知症診療にどのような役割を果たす可能性があるのか、最近の状況と筆者自身の実践や研究を通じて考えてきたことを整理してお示したい。

地域包括ケアと認知症

認知症という疾患を振り返ってみると、MCI (mild cognitive impairment: 軽度認知障害) と呼ばれる時期から、初期段階、中等度、重度、最重度に至るまで10年以上におよぶ経過を辿ることも珍しくない長期経過を辿る疾患であり、その間、本人、家族も症状の変化に戸惑いつつ、様々な医療・介護関係者などと巡り会いながら過ごしていくことになる。従来唱えられてきた地域包括ケアの理念だけでは認知症施策として十分とは言えないことから、2012年にオレンジプランが提唱され、2015年1月に新オレンジプランとして改訂された国の認知症施策の中で、認知症ケアパスとして、地域の資源が有機的につながり、ケアの良い流れを作ることが目標とされた^{1,2)}。医療経済的にも、日本における認知症の社会的コストは1年間に14兆5千億円にのぼることが示され、社会の持続性を考える上でも喫緊の課題である³⁾。私たちも、物忘れ外来通院中の患者の介護保険サー

ビス利用のコストを調査し、今後、このコストを抑制するためには認知症の人を地域で見守る体制づくりが大切であることを考察した⁴⁾。

認知症カフェの登場とそれを形作る要素

では、具体的にどのようにそれを進めて行くことが可能であろうか。認知症の人を地域で見守るといっても、そう簡単なことではない⁵⁾。私たちが2012年に行った調査でも認知症の人を地域で見守る体制づくりのためには多くの障壁があることが明らかであった⁶⁾。しかし、一方で、従来の認知症診療や介護保険サービスだけでは、障壁を乗り越えていけるものではないことも明らかであった。そのようなジレンマの中から、認知症カフェのアイデアが生まれてきた。2012年、日本の各地で同時多発的に先駆的な認知症カフェが登場したとされるが、私たちも同年4月から計画を開始し、9月にオレンジカフェ1号店を開始した。物忘れ外来での診療実践から、認知症の人と家族への支援は両方とも重要であるが、両者のニーズは異なることを感じていたので、オランダで創始されたアルツハイマーカフェの活動なども参考にしてカフェというスペースでそれが両立するよう工夫して運営を行った⁷⁾。ボランティアと医療・介護専門職が協力する形でスタッフを担い、スタッフの研修も継続的に行った。その結果、認知症の人にとっても、認知症の人の家族にとっても居心地のよい、安心でき、必要なことが学べる認知症カフェと

* Hajime Takechi : Professor, Department of Geriatrics and Cognitive Disorders, Fujita Health University School of Medicine

することができた。新たに認知症カフェを開設しようとする専門職等が見学を訪れ、OJT研修として見聞したことをレポートにして提出したので、それを質的に分析することで、認知症カフェを構成する要素は何なのかを示した。認知症カフェ全体の持つ雰囲気や構成要素全体、認知症の人と家族それぞれの居心地の良さなど、スタッフの動きと力量という3つの大きな要素が抽出され、更に9つの細項目に分類して提示した⁸⁾。中でも、スタッフの動きと力量に関する4要素は認知症カフェを作り出す要素として重要であり、そのようにスタッフを育成するための目安を20項目の認知症カフェスタッフ自己評価票として作成し、評価スケールとしての信頼性・妥当性を検証することとした。この調査には、全国69箇所の認知症カフェが協力要請に応じてくれた⁹⁾。今後、この評価スケールを各カフェでのカフェスタッフ養成に役立ててもらえればと考えている¹⁰⁾。

認知症カフェの増加とその意義

さて、一方で、全国的にも認知症カフェは増加の一途を辿った。特に2015年1月の新オレンジプランで各市区町村に少なくとも1つの認知症カフェを設立することが強く推奨されたこともあり2018年度には全国7千箇所を超える認知症カフェが運営される状況となった。単純に平均すると、人口2万人に1箇所以上の割合で存在していることになった。これらのカフェは、それぞれの自治体や運営者の考え・思いなどもあり、様々な特徴を持った認知症カフェとして良い意味では幅広いバリエーションを持つことになり、悪い意味では、認知症カフェとしての標準化が行われず、カフェの果たす役割をエビデンスとして示していくことが難しい状況が生まれた。そこで、厚生労働省の老健事業として行われた認知症カフェの全国調査をもとに、1,335箇所の認知症カフェの分析を行った¹¹⁾。その中でも特にどのようなカフェの要素がカフェ来店者に有意義なのかを分析した。その結果、認知症の人は同じ立場の仲間と出会うことやコンサートなどの様々な行事が楽しめることを、認知症の人の家族も同じ立場の人と話し合えることや専門職に相談できること、地域の住民は認知症に関するミニ講座を聴けることや専門職と相談できることを認知症カフェの意義として捉えていることが示された¹²⁾。

おわりに

認知症カフェが超高齢社会を迎えた日本で、重要

な地域資源として広がってきた様子を振り返ってみた。今後、その内容が更に良い形で標準化され、認知症の人にとっても、その家族にとっても、地域の住民にとっても、そして、医療・介護専門職やその枠を超えて地域での様々な仕事にかかわる人にとっても重要な拠点となる場所として発展することを願っている。

参考文献

- 1) 厚生労働省. 今後の認知症施策の方向性について; 2012.
<http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/dementia/dl/hokousei-02.pdf>. Accessed.
- 2) 厚生労働省. 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）; 2015.
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000072246.html>. Accessed.
- 3) Sado M, Ninomiya A, Shikimoto R, et al. The estimated cost of dementia in Japan, the most aged society in the world. PLoS One 2018;13(11):e0206508.
- 4) Takechi H, Kokuryu A, Kuzuya A, et al. Increase in direct social care costs of Alzheimer's disease in Japan depending on dementia severity. Geriatr Gerontol Int 2019.
- 5) 京都式認知症ケアを考えるついで実行委員会. 認知症を生きる人たちからみた地域包括ケア. 京都: クリエイツかもがわ, 2012.
- 6) Takechi H, Mori T, Hashimoto T, et al. Present status and road map to achieve inclusive and holistic care for dementia in a Japanese community: analysis using the Delphi method. Dement Geriatr Cogn Disord 2014;38(3-4):186-199.
- 7) 武地 一. 認知症カフェハンドブック. 京都: クリエイツかもがわ, 2015.
- 8) Takechi H, Sugihara Y, Matsumoto H, et al. A Dementia Cafe as a Bridgehead for Community-Inclusive Care: Qualitative Analysis of Observations by On-the-Job Training Participants in a Dementia Cafe. Dement Geriatr Cogn Disord 2018;46(3-4):128-139.
- 9) Takechi H, Yamamoto F, Matsunaga S, et al. Dementia Cafés as Hubs to Promote Community-Integrated Care for Dementia through Enhancement of the Competence of Citizen Volunteer Staff Using a New Assessment Tool. Dement Geriatr Cogn

- Disord 2019;48(5-6):271-280.
- 10) 武地 一. ようこそ、認知症カフェへ. 京都: ミネルヴァ書房, 2017.
 - 11) 認知症介護研究・研修仙台センター. 認知症カフェの実態に関する調査研究事業報告書; 2017年3月.
https://www.dcnet.gr.jp/support/research/center/detail.html?CENTER_REPORT=284. Accessed.
 - 12) Takechi H, Yabuki T, Takahashi M, et al. Dementia Cafes as a Community Resource for Persons With Early-Stage Cognitive Disorders: A Nationwide Survey in Japan. J Am Med Dir Assoc 2019.

この論文は、2018年12月1日（土）第22回中部老年期認知症研究会で発表された内容です。